



ふじみ野市 支え愛 センターだより NO1号

発行・編集 NPO法人ふじみ野明るい社会づくりの会
発行人 北沢紀史夫
事務局 〒356-0053 ふじみ野市大井2-15-10
うれし野まちづくり会館2階
TEL 049-293-6266

URL http://www.fujiminosasaeai.com/meisya.html



▲奨励賞と表彰楯

埼玉県は「日本一の共助県」を目指しています。

今年「ふじみ野市支え愛センター」は、その実績が認められ、11月14日「県民の日」に「あしたのまち、くらしづくり活動賞」を受賞しました。これからも、皆様一人一人の力を結集させていただき、頑張って行きたいと思います。



支え愛センターの歩み

- 2010年
 - 1月 NPO法人ふじみ野明るい社会づくりの会「30周年記念事業アンケート」調査実施
 - 10月 埼玉県「地域支え合いの仕組み推進事業」決定
 - 11月 ふじみ野市「支え愛センター」サービス開始
- 2011年
 - 11月 月間利用時間数1000時間超達成
 - 12月 「1周年記念シンポジウム」開催
- 2012年
 - 2月 ホームページ作成
 - 7月 NHK「おはよう日本」TBS「朝スバ」テレビ放送
- 2013年
 - 4月 ふじみ野市「優=You&I=愛で地域支え愛事業」決定
 - 4月 月間利用時間数2000時間超達成
 - 7月 月間利用時間数2800時間超達成
 - 11月 「あしたのまち・くらしづくり活動賞」受賞
 - 12月 「ふじみ野市支え愛センターだより」第1号 発行



感謝と喜び

NPO法人ふじみ野明るい社会づくりの会

代表理事 北沢 紀史夫

賛助会員、ボランティア、利用者及び行政の皆様、日頃から支え愛事業に絶大ななるお力添えを承り心から厚く御礼申し上げます。皆様全員のお陰様で平成二十五年年度「あしたのまち・くらしづくり活動賞」を頂きました。利用時間数は増え続けています。これは、利用しやすい価格と方法もありますが、ボランティアは「あなたのいい顔見たい」という理念のもとに活動して下さい、利用者も喜んで

下さっているからだと思います。現在、国は財政難を理由に在宅医療を急激に進めています、問題は地域住民の受け入れ体制です。「支え愛センター」は、長屋のおせっかい婆さんを現代風にシステム化したものです。ボランティアは、お金ではなく「ありがとう」の一言をご褒美に活動して下さい。全市民が、支えてもらう側であると同時に支える側になって頂ければと願っています。

安心して住みながら街をのぞいて 鏡 康子



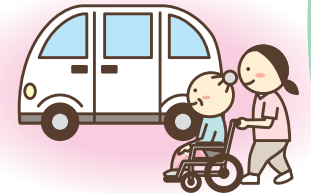
いつもご利用ご協力ありがとうございます。あなたのいい顔見たい」をキャッチフレーズに、今日も電話受付を担当しています。皆様の気持ちに少しでも寄り添いたいという思いで、いつも耳を傾けています。この活動を通して、微力ながらも人の役に立っている事を実感し、またたくさんの仲間ができたことで社会や視野が広がり、心も豊かになったような気がします。

要支援が介護保険から分離、市町村の独自事業に移す案が出され、ふじみ野市では当センターが重要な受け皿になることが明らかです。

さまざまな経験を積んだ皆様が、地域の身近な人達に少しでも手を差し伸べるこの活動がますます広がることを願っています。

先日「車のトラブル対応術」と題して、ホンダ学園公開講座を受講した。車の点検は、自分ですることが殆どないので、タイヤの知識、バッテリー上がり、オイル関係等、イザという時のために役立てると思った。車の進化は目覚ましく、驚きも沢山ありました。最近、スベアタイヤも常備なし、タイヤに釘が刺さっても液体注入するとか、パンクする確率が極めて少ないとのこと等。しかし、どんな性能の良い車でもハンドルを握るのは人間である。運転次第で危険な目にも遭うし、ちよっとした気のゆるみや、焦り、また体調によっても変化する。日頃の健康管理に気を付け、ベストの体調でゆとりある運転をこれから心掛けていきたい。

ボランティアを初めて三年になるが、車の運転による付き添いが一番多く、安心、安全を肝に命じてハンドルを握る日々である。



安心して、安全、無事を願って 有賀 勇

- ・NPO法人ふじみ野市学童保育の会
- ・株式会社 協和清掃運輸
- ・株式会社 埼玉金周
- ・株式会社 吉岡
- ・カルチャースクール めるへん夢工房
- ・木下の介護 ライフコミュニケーションふじみ野
- ・彩貴会
- ・美クッキング学園
- ・ふじみ野健康マージャンクラブ
- ・ふじみ野市スタンプ会
- ・ペラ美容室
- ・前田歯科医院
- ・宮建ハウジング
- ・有限会社 クイアンドクイ
- ・(有) 東日商事
- ・(有) 吉野工務店
- ・和気産業株式会社

◀五十音順 敬称略▶

ボランティア必須心得

- ① ボランティア依頼は必ずセンター経由で受け取る。(直接交渉受話は絶対禁止)
- ② 料金は決められた算定基準で、利用者了解の下で清算する。(決められた金額以上及び金品の授受は禁止とする)
- ③ 個人情報保護のための守秘義務を遵守する。
- ④ 作業はセンターが認めた範囲内とし、それ以上は絶対禁止で安全第1とする。
- ⑤ 万が一事故発生には、速やかに人命救助第1に務め、当センターに即時報告する。
- ⑥ 車の運転は余裕を持って細心の注意を払い、安心安全に務める。
- ⑦ 最も基本となる日々の体調管理に万全を期し、依頼に対応する。
- ⑧ 作業終了時には、速やかに当センターに報告する。

編集後記

「ありがとうございます」またお願いします」一言に、笑顔が見える活動に、誇りと励ましをお伝え出来る機関紙の発行に努めてみました。ボランティアやスタッフの皆様の方で活動の輪を広げて行きますよう。(富田)

・発行に当たり心良く記事を提供していただきご協力有難うございました。これからも喜び、嬉しさを共有して絆を深めてまいります。皆様の心温まるお便りをお待ちしております。(有賀)

・「支え愛センター」の三年間の活動を振り返り気持ちも新たに、第1号を発刊しました。多くの方々の賛同を頂き、絆を深めながら、更なる飛躍を目標に頑張りたいと思います。(武田)

共助社会を生きる ボランティア活動の現状



地域に根付いた「支え愛事業」

埼玉県知事 上田 清司

北沢紀史夫代表理事をはじめ会員の皆様には、日頃から「優IIYOU&I」愛で地域支え愛事業を通じて、地域社会の発展の為、御尽力されている事に深く敬意を表します。

地域の人々が共に支え合う事が大変重要になっていきます。貴会では平成二十二年度に「地域支え合いの仕組み」を開始されて以来、年々利用実績を伸ばされています。最近では開始当初の約四十五倍の月間利用時間を記録されました。

絶え間ない御努力の賜であると思います。今後も高齢者の安心確保や子供の育成、地域商業の振興などにより一層のお力添えをお願い申し上げます。

結びに、貴会の御発展と皆様の御健勝、御活躍を心から祈念申し上げます。



「支え愛事業だより」発刊に寄せて

ふじみ野市長 高畑 博

「支え愛センター便り」が創刊されます事を心よりお慶び申し上げます。会員の皆様におかれましては日頃より地域に根ざしたボランティア活動を通じて、地域活性化と暖かい町作りに多大なご貢献を賜り、厚く御礼申し上げます。

スタートして以来、順調に事業が展開され、利用者数も年々増加し、一ヶ月当りの利用時間は事業開始以来、埼玉県内で一番であると伺っております。

これらもひとえに、ボランティアの方々の真摯な取組と、「NPO法人ふじみ野明るい社会づくりの会」の皆様をはじめとする、事業を支える方々のご尽力のおかげです。

皆様方のご活躍がより一層広がりますようご期待申し上げますと共に、皆様ますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。



恩返し 関根 晃

昨年、弊社は、創業五十年を迎えることが出来ました。これもひとえに、地域にお住いの方々の支えがあればこそ、成し得た事と考えております。その御恩に少しでもお返し致したく、本年度より「NPO法人ふじみ野明るい社会づくりの会」のボランティア活動に参加させて頂くことになりました。

月に一〜三回程度と、少しの手伝いではございますが、参加者の多くから「草むしり、庭木の剪定、障子の張り替え等、出来る作業に限られています。少しでもお役に立てばと思ひ作業にあたっています。これらの活動を通して、ご依頼者の皆様に喜んで頂ける事が、何よりの励みになります。」という感想を聞いております。



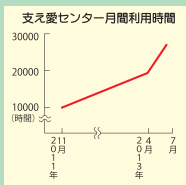
「おがやりの声を聞いて」 星野 富美子

平成二十三年二月十四日先輩について男性お一人住まいのお宅に伺いました。手分けして一時間、初めて他人様宅のお掃除でした。これを皮切りに自転車で動ける範囲で依頼がきます。部屋の掃除、引越越し前後の片づけ、お買物代行、留守中の花の水やり、庭の草取り、お話し相手、時間の許す限り受けています。先方では、依頼以外の仕事はしないのがルールかも知れませんが、困っている姿に明日の我が身を重なる時「せめてここまで」とつい手を出すこともあります。

薬の副作用で、足のだるさを訴える方にバスタオルで作ったボルスター（足枕）は気に入っていたようです。「ありがたう」の声を背に、今日はどの程度役に立てたかなと胸に問いつつ帰途につきます。

地域で支え合う社会が広がることを期待

ふじみ野市改革推進室



優IIYOU&I愛で地域支え愛事業の機関誌が創刊されるに当たり一言お祝い申し上げます。

地域支え愛事業が県の補助金を受けて開始されてから今年の十月で三年が経ちました。開始当初は、県内の実施団体における利用時間は少なく、この事業の必要性や有効性などをご理解いただき、ご利用いただけるの不安なところもありましたが、現在では皆様のご努力により多くの方のご利用をいただき、多の方の支えになっていくことを大変喜ばしく思っております。

国の白書では、高齢者数は現在の四人に一人から二十二年後の平成四十七年には三人に一人になると推計されています。

また、今後は在宅による介護の増加なども見込まれることから、介護予防や元氣なお年寄りを出創する支え愛事業がますます活躍することと思えます。今後、地域で支え合う仕組みが循環し、社会に広がることをご期待し、あいさつとさせていただきます。



「もう一冊」の贈り物 成田 哲偉

定年後、毎日サンデー十年の昨年、知人の紹介で当センターを知り共感。私も二度大病経験、医師はもちろん特に家族や周りの人の御陰と感謝している。この元氣をもらったお返しに、何かお役にたきたいと思ひ参加して二年経ちました。

どなたでも病気、入院、通院等は心配や不安に思う。更に核家族の時世、高齢者夫妻一人暮らしで足腰不調の増、いずれば我身にも来る。今なら自分の経験から通院時の気分のイラつくストレスを少しでも緩和にと思ひ、「足しー君」の顔が少しでも「笑顔」に変わると、お役に立てたとホットし、自分にも妙薬となる。これからは様々な事情で援助を必要としている方々、全市民で相互扶助の精神で明るい町づくり運動に、賛助会員の皆様と「共助」の輪が大きく拡がる事を願っています。